

浜嶋です。
こんにちは。

4月から入院や団行事と重なって、ビーバー隊の集会に参加することが減少しました。

計画書には、開会儀礼の団委員長挨拶や今日の英語が予定されています。この役割を果たせないのが申し訳ないと思っています。

団委員長挨拶は、スカウトたちや保護者に伝えたいことを短くお話しします。ボーイスカウトの活動は教育活動であることは、もうご存知のことだと思います。ハイキングを始めるときに励ましの言葉で精神力を高め、有意義な活動にしてもらうことや、スカウトの育成に役立つこと、日常生活の中でなにか気付いてほしいことを考えます。基本は、「やくそく」と「きまり」、モットー、スローガンについて、自分自身で考えられるようにしてあげることを目指しています。

団委員長が、あるいは隊長が自分の思いをスカウトに伝える場合は、挨拶のときしかありません。スカウトが、「今日はどんな話をするのかな」、「言っていることはわからないけど、なんか大切なことなのかな」と話を受けとめる姿勢を持たせることも教育の成果です。隊長挨拶や団委員長挨拶は、その場でしか聞けないことです。保護者も集中して話を聞きましょう。スカウトは短い話ですから一生懸命聞きましょう。考えてくれると思います。

ビーバー隊では、隊長挨拶及び団委員長挨拶は、当日までにリーダーに配布されます。何を話すのかを事前に知って、その隊集会でスカウトをリーダー全体で指導する体制としたいからです。当日欠席する指導者にも伝えることができます。私は、保護者にも文書（メール）でお伝えしてスカウトの教育を保護者と協力してやりたいと思っています。特に保護者の教育に対する関心が強い場合は、効果を高めることができます。ただし、これは隊長が決める話ですから、心で思っているだけです。

事前に配布するのは、事前に準備をするということです。準備ができていなければ、隊長挨拶は、易きに流れて当日のプログラム説明になってしまいます。私もカブ隊長の時に何度も経験しています。これは、隊長は自信たっぷりで話ができ、これでいいと自己満足してしまいます。そして話は長くなり、開会儀礼として好ましくありません。駄目だと分かっているにしてもそうになってしまいます。スカウトは活動内容をその場で理解できるでしょうか。「またか。後でまた説明があるからいいや」と集中して聞くことはないでしょう。スカウトの集中力が無くなると、隊長は一層説明に力が入ります。もう開会儀礼ではなくなります。緊張したセレモニーから離れていきます。

ビーバー隊以外の隊では、うまくやっているでしょうか。

団委員長挨拶の場を設けていただいていることは、大変うれしいことです。他の隊に参加する場合も、いつも声をかけてもらっています。

それだけに、しっかり準備をして、スカウトの成長に少しでもお役に立てるよう頑張り

たいと思います。